

2026年度 第4回（9月）北辰テスト対策 予想問題 漢文ミニ（大問4差し替え用）

解答・解説

国語

4 問1（4点）

ア

返り点は「レ点 → 一・二点」の順に働く。上から見ていって、返り点の付いた字はいったん飛ばす。

兎 不ズシテ〈レ〉 可カラ〈二〉 復タ 得〈一〉

① ⑤ ④ ② ③

1. 兎……返り点がないのでそのまま読む（①）
2. 不……レ点が付いているので飛ばす
3. 可……二点が付いているので飛ばす
4. 復……返り点がないので読む（②）
5. 得……一点が付いている。ここまで読んだので一点 → 二点の順で返る（③）
6. 可（二点）に返る（④）
7. さらに不のレ点で、すぐ上に返る（⑤）

よって 兎 → 復 → 得 → 可 → 不 = 「兎復た得べからずして」。

誤答の切り方

- ・イ……返り点をまったく無視して上から読んだ順。返り点が付いた字は必ず飛ばす。
- ・ウ……「復」を飛ばしてしまっている。返り点のない字は必ずその場で読む。
- ・エ……「不」と「可」の返る順序が逆。レ点（不）は一・二点（可）よりあとに働く。

4 問2 (4点)

因りて其の耒を耜てて株を守り

訓読文は

因リテ 耜テテ 〈二〉 其ノ 耒ヲ 〈一〉 而 守リ 〈レ〉 株ヲ

読む順序

1. 因リテ……返り点なし → 「因りて」
2. 耜テテ……二点なので飛ばす
3. 其ノ……そのまま → 「其の」
4. 耒ヲ……一点。ここで二点の「耜テテ」に戻る → 「耒を耜てて」
5. 而……置き字なので読まない・書かない
6. 守リ……レ点なので飛ばす
7. 株ヲ……読んでからレ点で「守リ」に戻る → 「株を守り」

つなげて「因りて其の耒を耜てて株を守り」。

採点ポイント (各1点)

1. 「其の耒を」が先、「耜てて」があと (一二点の処理)
2. 「株を」が先、「守り」があと (レ点の処理)
3. 置き字「而」を書いていない
4. 送り仮名をひらがなに直している (「耜テテ」→「耜てて」、「守リ」→「守り」)

よくある誤答

- ・「因りて其の耒を耜てて而株を守り」……置き字「而」を書いてしまっている (-1)
- ・「因りて耜てて其の耒を株を守り」……一二点を無視している (-1)
- ・「因りて其の耒を耜てて株を守る」……訓読文の送り仮名は「守リ」。連用形「守り」で次に続く

4 問3 (4点)

ア

根拠は「冀フ〈二〉復タ得ンコトヲ〈一レ〉兎ヲ」＝「復た兎を得んことを冀ふ」(また兎を手に入れることを強く願った)。

注釈にあるとおり「冀ふ」は「強く願う・あてにする」の意味。兎が偶然ぶつかって死んだのを見て、「同じことがまた起きるはずだ」と期待して切り株の番をした、という流れである。

誤答の切り方

- ・イ「切り株を取り除こうとした」……本文は「守る(見張る)」であって、取り除いてはいない。本文にないこと。
- ・ウ「兎が作物を荒らす」……兎は畑を荒らしていない。走ってきてぶつかって死んだだけ。本文にないこと。
- ・エ「笑われないよう農作業をやめた」……因果が逆。農作業をやめた結果として「宋国の笑ひと為れり」＝国じゅうの笑いものになった。

4 問4 (4点)

(例) たまたま得た幸運にこだわって古いやり方に固執する (というおろかさ)

(例) たまたま得た幸運にこだわって古いやり方に固執する (24字)

別解例

- ・「一度きりの幸運をあてにして、自分から努力するのをやめてしまう」(30字)
- ・「昔うまくいったやり方にしばられ、変化に対応しようとししない」(28字)

採点ポイント (各2点)

1. 「偶然 (たまたま) 得た幸運・一度きりの成功」にあたる内容が書けている
2. 「それにこだわり続ける／古いやり方に固執する／努力をやめる」にあたる内容が書けている

書けていないと減点

- ・「兎を待った」など、話のあらすじをなぞっただけで教訓の形になっていないもの (-2)
- ・「あきらめずに続けることが大切だ」など、評価が逆のもの (0点)
- ・字数が20字未満・30字超 (0点)

背景：故事成語「守株 (しゅしゅ)」＝「株を守る」。日本語では「守株待兎 (しゅしゅたいと)」ともいい、「いつまでも古いしきたりにとらわれて融通がきかないこと」のたとえとして使われる。『韓非子』は、昔の聖人のやり方をそのまま今の世に当てはめようとする考えを批判するために、この話を持ち出している。